

日建連における 建築BIMの取組み

2026.03.24



一般社団法人 **日本建設業連合会**
JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

建築本部 建築BIM合同会議

建築生産委員会 BIM部会

はじめに | 日建連の建築BIMロードマップ

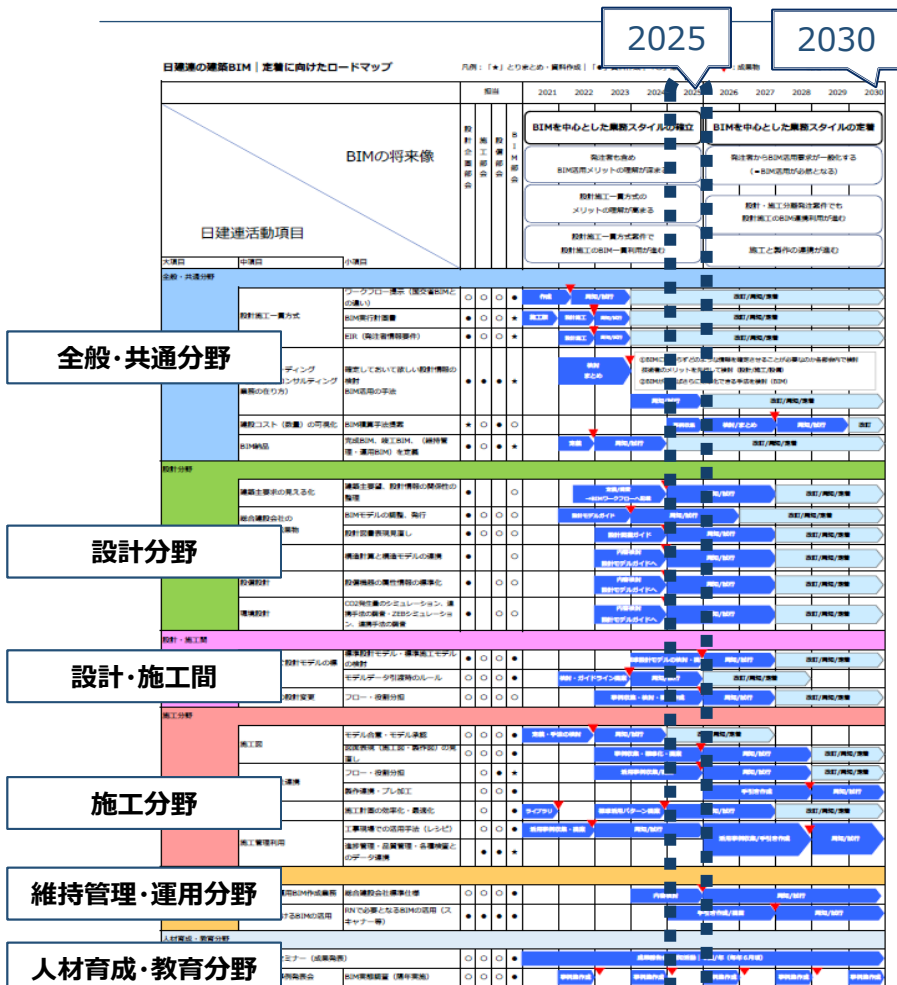


目標 ▷ 2025年：BIMを中心とした業務スタイルの確立 | 2030年：BIMを中心とした業務スタイルの定着
 建築本部 建築BIM合同会議にて討議（構成部会：設計企画部会・施工部会・設備部会・BIM部会）

定着に向けたロードマップ

主な成果物（公開日）

文字は今回のご紹介内容



建築BIM (設計・施工・維持管理・運用)		<ul style="list-style-type: none"> ● 設計施工一貫方式におけるBIMのワークフロー（第4版：2026.6公開予定） <ol style="list-style-type: none"> ① 「生産性向上」の取り組みとBIMの関係性 ② 設計段階における設計部門と施工部門の共創（例）（2026.6に公開予定）
設計BIM		<ul style="list-style-type: none"> ● 設計BIMモデルガイド（2024.6）
施工BIM		<ul style="list-style-type: none"> ● 施工BIMのスタイル（2021.3） <ol style="list-style-type: none"> ② 鉄骨工事における設計者と施工者の共創（例）（2026.4に公開予定） ② 設備工事における設計者と施工者の共創（例）（2026.6に公開予定） ③ 施工BIMの活用ガイド（第4版：2026.4に公開予定）
人材教育		<ul style="list-style-type: none"> ● 日建連BIMセミナー（2026.6開催予定） ● 施工BIMのインパクト（2026.12） ● 日建連会員企業BIM動向調査（2025年度）（2026.6に公開予定） ● 建築BIM事例集2026（2027.3に公開予定）

① 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー

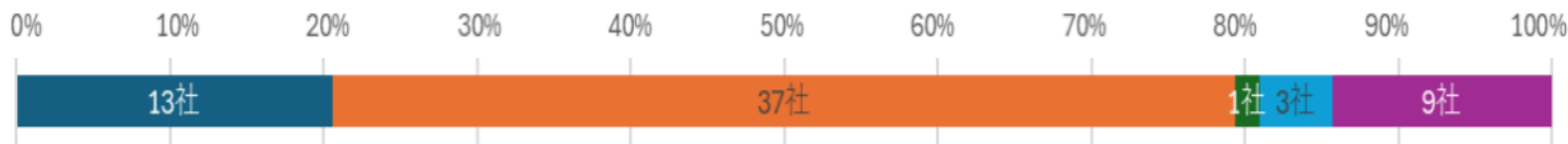
会員企業の多くは、生産現場における生産性向上の取り組みにおいてBIMは必要不可欠と考えています。着手している取り組みではBIMが第1位であり、効果的な取り組みとの評価もあります。

BIMの取り組み状況 | 「生産性向上のために着手している取り組み」より

(N=88)

- 1, 適用可能な現場の大半で実施している
- 2, 適用可能な現場の半数以上で実施している
- 3, 限られた現場でのみ実施している
- 4, モデル現場での試行段階である/試行予定がある
- 5, 取り組んでいない

2024年度実績



2023年度実績



▲ 生産性向上のために着手している取り組み (BIMの割合)

生産性向上のために着手している取り組み (順位)

第1位 | BIM

第2位 | 設計施工一貫方式の受注拡大

第2位 | アウトソーシングサービスの活用

特に効果的だった取り組み (上位3項目選択)

第1位 | アウトソーシングサービスの活用

第2位 | BIM

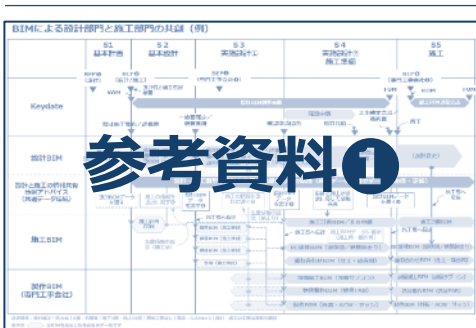
第2位 | 設計施工一貫方式の受注拡大



② 設計部門と施工部門の共創（ワークフローを提唱）

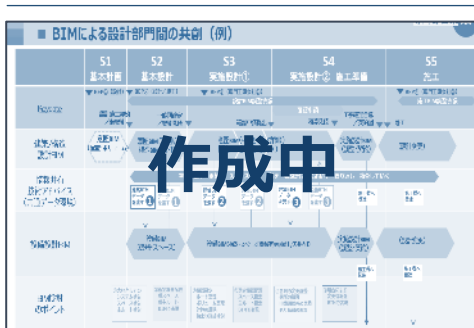
BIMや設計施工一貫方式が生産性向上の取り組みの上位になっており、設計段階から設計部門と施工部門が共創する業務の進め方に注目が集まっています。そのため業務の手順を示すワークフローが重要になります。

設計段階 | 設計-施工



▲ ワークフロー（例）

設計段階 | 設備-建築



▲ ワークフロー（例）

設備工事 | 設計-施工



▲ ワークフロー（例）

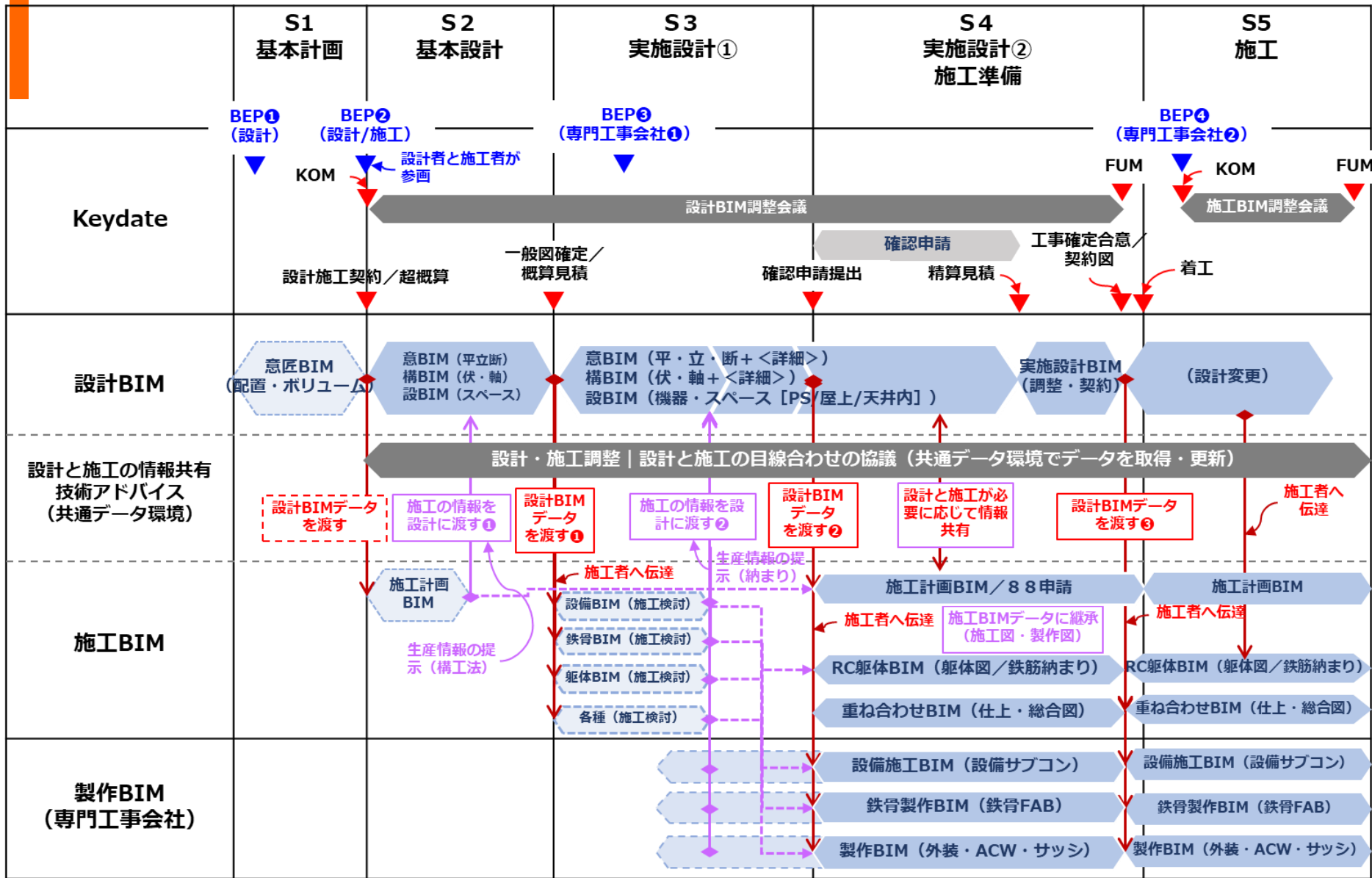
鉄骨工事 | 設計-施工



▲ ワークフロー（例）

- ◎ 設計部門（意匠・構造・設備）と施工部門（元請・専門工事会社）がプロジェクトの特性・目的に合わせて、業務を開始する前にワークフローを立案すること、が肝要です
 - ◎ 参加者のすべてが効果を楽しむストーリー（ワークフロー）の立案が必要です
 - ◎ 詳細な解説：「2026年度日建連BIMセミナー」（6月開催予定）にて解説をします
- ※各種ワークフローは6月中頃に日建連HPに掲載（予定） | ※鉄骨工事は4月上旬（予定）
- ※各種ワークフローは日建連の『設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー』に反映いたします。現在、改訂作業をすすめており、2026年6月に（第4版）として公開を予定しています。

参考資料① | BIMによる設計部門と施工部門の共創 (例)



想定建物：設計施工一貫方式 | S造 | 杭基礎 | 地下1階・地上10階 | 解体工事なし | 延床：5,000m² | 設計・施工の工程は現状を踏襲

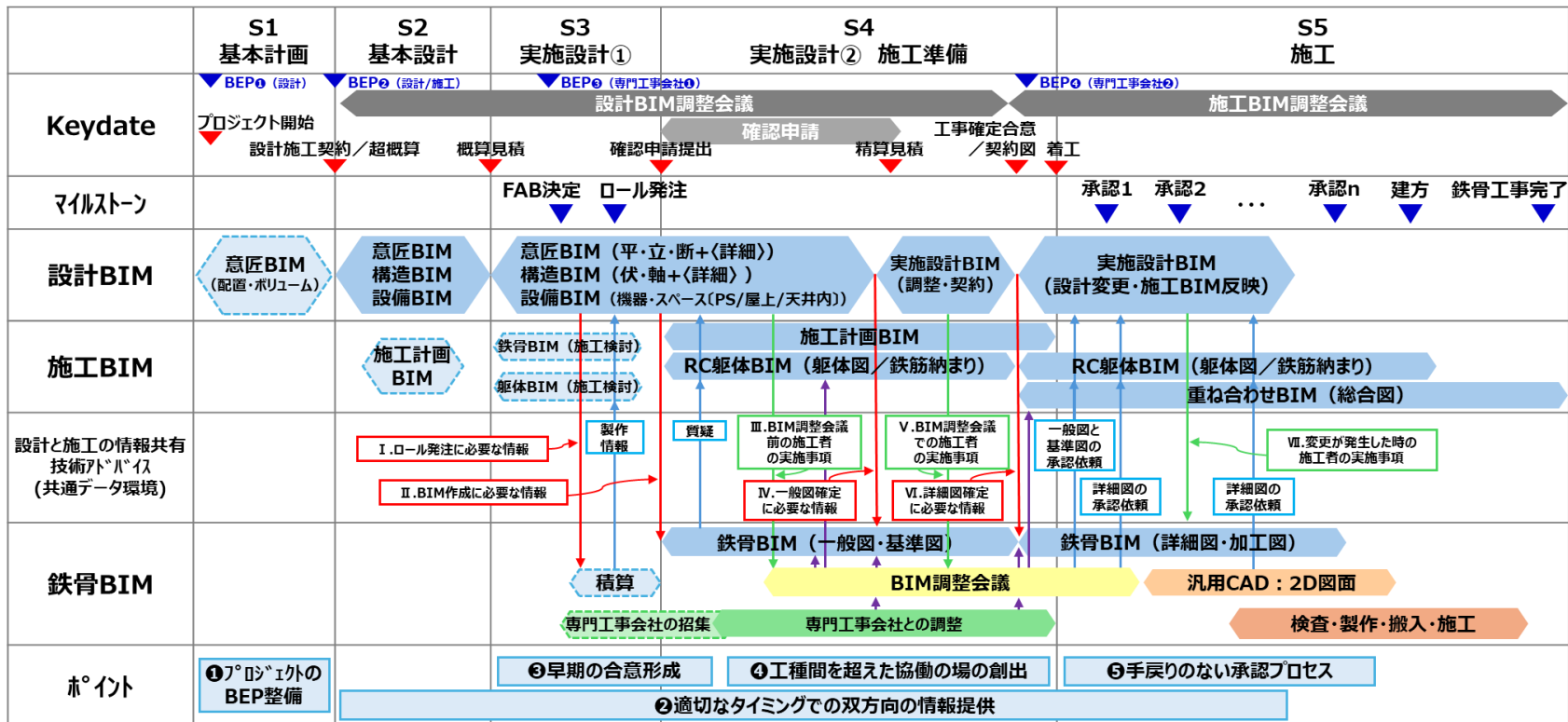
表中の はBIMを活用した場合を示す一例です

2026年6月に日建連HPにて公開 (予定)

参考資料② | 鉄骨工事編 BIMによる設計部門と施工部門の共創 (例)

鉄骨工事：BIMによる設計部門と施工部門の共創 (例)

※ワークフローはプロジェクト毎にBEPで決めるため、本ワークフローはあくまでも一例



→ : 施工者が提供 → : 施工者の実施事項 → : FABが提出 → : 施工者とFABと専門工事会社の協議情報 ○ : BIMを活用した場合を示す一例 ※設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー(第3版)に準拠
 前提条件: ①設計施工一貫方式で建物規模は中規模 ②FAB決定後からのワークフローとする ③鋼材の納期は考慮しない ④設計者、施工者、FABはBIMを通常利用している ※BIMデータ連携WG 2025年度 活動報告 参照推奨

各フェーズにおけるポイント

- ①プロジェクトにおけるBEPの整備 (S1)
 初期段階で設計者と施工者が協議し、BEPを整備する。FABごとにBIMの応用レベルが異なるのでLODのルールを明確化し、BEPに明示することが望まれる
- ②適切なタイミングでの双方向の情報提供 (S2~S5)
 設計情報・施工情報の提供(施工者側)や、製作情報の提供・納まりに関する質疑(FAB側)等を適切に遅滞なく実施する。段階的に問題を解決していくことで正しさが保証されたBIMに整えていく
- ③早期の合意形成 (S3)
 もの決めの遅延による工程の逼迫が鉄骨工事における喫緊の課題。ただし、「負荷の前倒し」ではなく「課題の発見とその解決の前倒し」を目的とすることが肝要である
- ④工種間を越えた協働の場の創出 (S4)
 専門工事会社のプロジェクトへの参加が遅れると調整による変更が必ず発生する。BIMを用いて垣根を越えた調整と協働の場を提供する
- ⑤正しさの保証で手戻りのない承認プロセス (S5)
 BIMの可視化性、情報正確性を最大限活用し、監理者との合意形成を着実に進めることでスムーズな承認行為が達成される

各フェーズにおいて施工者が実施すべき内容の一例

I. ロール発注に必要な情報	II. BIM作成に必要な情報	IV. 一般図確定に必要な情報	VI. 詳細図確定に必要な情報
設計BIM (ロール発注段階) 建物の基本情報 構造種別・構造形式 製鉄方法の指定(高炉or電炉) 構造符号 部材形状と数量 鋼材の種類 ボルトの種類と数量	設計BIM (確認申請段階) 鉄骨基準図 溶接基準図 部分詳細図 施工計画図 工区割り BIM化する範囲	設計BIM (見積図段階) 柱脚の納まり めっき・塗装範囲 シーム位置 附帯鉄骨関連 設備スリーブ・鉄骨階段 EV・ESC・内外装関連 等	設計BIM (契約図段階) その他附帯鉄骨関連 母屋・胴梁 デッキ受け・スラブ段差下地 間仕切り受ベース 仮設ベース 等
III. BIM調整会議前の施工者の実施事項	V. BIM調整会議での施工者の実施事項	VII. 変更が発生した時の施工者の実施事項	
BIM調整会議の目的の明確化 工程に沿った開催スケジュールの設定 承認フロー・承認責任者の合意 確認対象範囲・確認手法の合意 チェックリストの作成	BIM調整会議の目的・内容の再確認 チェック結果の共有 複雑な納まりの確認・合意 合意事項・未解決事項の整理と対応 BIM確認後のスケジュールの合意	関係者への情報共有・連絡 変更内容の把握と影響範囲の特定 コスト・工程への影響確認と調整 製作・施工の一時停止指示 (必要時) 図面・BIM修正および内容の可視化	

2026年4月に日建連HPにて公開 (予定)

③ 『施工BIMの活用ガイド（第4版）』の公開

日常の施工管理業務におけるBIM活用の手引きとして、24項目の「活用レシピ」を公開しています。BIM部会参加企業の実践からの気づきや要点などを反映させて活用メニューを整理しています。

本文の内容 | 2026年4月上旬に日建連HPに掲載（予定）

参考資料③



第4版

一般社団法人 日本建設業連合会
建築生産委員会BIM部会
BIMモデル活用WG 編

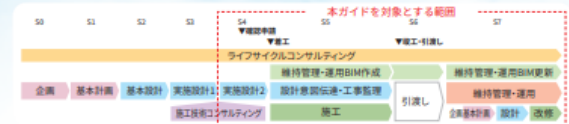
▲ 施工BIMの活用ガイド（第4版）

- ◎ 第1版～第3版のマイナーアップデート
- ◎ 用語の見直し
- ◎ 「BIM活用レシピ」第2版12項目＋第3版12項目を組み合わせ順に並び替え
- ◎ 「表紙」「はじめに」「使い方」更新
- ◎ 「インデックス」「日常業務におけるBIMモデル活用」更新
- ◎ 「目標設定シート」を参考資料として巻末に掲載

参考資料③ | 施工BIMの活用ガイド (第4版)

I BIMモデル活用インデックス

全体工期の各フェーズにおける、さまざまなBIMモデルの活用例を紹介します。本インデックスは設計施工一貫を前提として作成しています。



参考図「業務区分(ステージ) 国土交通省 建築BIM推進会議「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方法に関するガイドライン(第2版)」(令和4年3月)より

		S4	S5										S6	S7		
		実施設計2	維持管理BIM作成												引渡し	維持管理
		フェーズ0	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4	フェーズ5	フェーズ6	フェーズ7	フェーズ8	フェーズ9	フェーズ10	フェーズ11	フェーズ12		
INPUT	工事工程	解体工事 確認申請 請負契約	準備工事 着工	山留め・杭工事	地下仮設工事	土工事	地下躯体工事・免震工事	地上仮設工事(タワークレーン設置、外部足場、工事用エレベータ)	地上躯体工事(RC、S、SRC、PC)	外装仕上工事	内装仕上工事	外構工事	検査	竣工引渡し 維持管理対応		
	施工モデル	建築モデル(敷地・意匠・構造・躯体) / 統合モデル												維持管理モデル		
	専門工事会社連携モデル	設備モデル(サブコン)														
	詳細検討モデル	鉄骨ファブモデル			鉄筋モデル			仕上メーカーモデル			仕上詳細モデル			外構モデル		
施工計画モデル	施工計画モデル / 振削モデル / ステップモデル				鉄骨工程ステップモデル				重ね合わせモデル							
OUTPUT	会議 コミュニケーション	●着工時PR動画 ●近隣説明	●施工検討会	●安全計画検討(10)	●仮想安全パトロール		●遠隔検査(19)	●仕上DMU ¹⁾ ●設備・仕上xR ¹⁾ (21)		●外構xR ²⁾			●竣工式支援			
	数量情報	●土量計算	●発注数量(主要数量)	●地下コンクリート数量	●足場材組立数量	●免コンクリート数量						●足場材解体数量				
	施工計画	●概算時数量算出	●仮設建物確認 ●掃重計画(02) ●総合仮設計画(03) ●山留め計画	●タワークレーン組立・解体計画	●仮設構台計画 ●地上サイクル計画 ●鉄骨建方計画 ●外部足場計画	●施工DMU ¹⁾ ●搬出入計画 ●内部足場計画 ●コンクリート打設計画	●搬出入用開口計画 ●外装施工計画	●内装施工計画	●屋上施工計画	●掃重計画(屋上設備)	●タワークレーン解体危険作業確認	●足場解体危険作業確認		(竣工後) ●維持管理(24) ●アフターサービス ●改修工事 ●LCC		
	工事管理	●測量(04)	●点群・重ね合わせ(08) ●杭心管理(07)	●ICT建機連携(09)	●配筋検査 ●出来型検査(15) ●数量精度管理(16)	●床レベル確認 ●不陸確認 ●数量精度管理(16)	●設備検査(18) ●中間検査支援	●設備干渉確認 ●仕上げ進捗管理	●屋上干渉確認	●外構納まり・レベル確認	●自主検査確認	●仕上げ検査(23) ●設備検査				
	製作連携			●設備施工ユニット計画	●工場・製品検査(鉄骨・建具・PC)	●鉄筋加工連携	●設備フレカット(17)	●プレカット(LGS・ボード)								
	納まり検討 施工図	●鉄骨二次部材施工検討(05) ●鉄筋納まり検討(06)	●杭頭補強確認 ●鉄骨図チェック	●解体図チェック(11) ●PC図チェック ●スリブチェック(13) ●建築・設備重ね合わせ(12)	●干渉チェック(14) ●平面詳細図チェック ●割付チェック(ECP・ALC・タイル・石)	●BIMパンプレット(20) ●製作図チェック	●天井割付 ●区画・壁種別の検討と確認(22) ●断熱範囲確認	●防水範囲・納まり確認 ●屋上納まり検討 ●備品配置検討								
	会議 コミュニケーション(01)		●所内打合せ	●定例会議	●工程調整会議	●朝礼・昼礼										
	安全管理			●安全大会	●災害防止協議会	●安全研修	●安全パトロール									
	数量情報			●専門工事会社契約数量	●コンクリート数量	●足場材手配数量										
	工事管理			●躯体品質管理	●進捗管理											
施工図		●仮設図	●総合図	●躯体図	●仕上図	●設備施工図	●外構図									

赤字(00)は「III. BIM活用レシピ」に対応しています。
●の色は、主に活用するインプットモデルの色を示しています。
カラーボール凡例
●建築モデル / 統合モデル ●設備モデル(サブコン)
●鉄骨ファブモデル ●仕上メーカーモデル
●鉄筋モデル ●仕上詳細モデル
●外構モデル ●施工計画モデル / 振削モデル / ステップモデル
●鉄骨工程ステップモデル ●維持管理モデル
●重ね合わせモデル

2026年4月に日建連HPにて公開(予定)

参考資料③ | 活用メニュー（部分） 24項目を解説

III BIM活用レシピ

16 鉄骨精度管理

難易度：☆☆☆ 中級者向き

Point フェーズ5

三次元測量機器とソフトウェアの組合せで実施可能！データ更新の仕組みづくりが大切！



● 実測データとBIMモデルを比較してリアルタイム精度管理

材料

- 建築モデル（検査部位のみで可）
- 敷地モデル（検査部位のみで可）
- 出来形の三次元測量データ、モデル
- ベンチマークデータ（重ね合わせ用に現地へ設置したもの）

準備

- 検査のための実測精度、その他条件を事前に協議
- 三次元測量機器を選定
- BIMモデルと三次元測量データを重ね合わせるためのベンチマーク箇所を事前に選定

手順

- ① 鉄骨柱のためのベンチマークを現地に設置し三次元測量
- ② ベンチマークを基準としてBIMモデルと三次元測量データを重ね合わせ
- ③ 専用ビューワを用いて差分を表示するなど可視化、関係者へ共有

◆ BIM活用前後の比較

	BEFORE	AFTER
視認性	二次元野帳や表形式で検査結果を表示	カラーマップ表示など視覚的に分かりやすい
検討効率	検査箇所を限定した抜き取り検査	鉄骨建方調整の省人化、省力化
資料作成	検査結果をCADや表形式で転記	帳票作成の省力化、手入力によるミスの防止

◆ 活用シーン

- 現場**
- 建方実施状況の確認
 - 建て入れ直し方針、方法の早期把握
 - 監理者との情報共有

- 事務所**
- リアルタイムの状況共有
 - 遠隔からの確認、支援
 - 測量データの記録、蓄積、分析

◆ 効果

◎高い、○中程度、△低い、-対象外

項目	取り組みやすさ		BIMの効果				
	運用性	作りやすさ	品質	コスト	施工	安全	環境
評価	△	○	◎	△	○	○	-

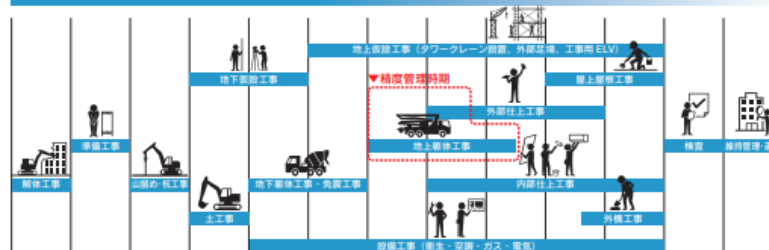
◆ 注意点・アドバイス

- 重ね合わせのためのベンチマーク設置やソフトウェア操作が検査精度に直結します。事前に注意して計画、協議しましょう。
- 測量機器、ビューワともに多くの市販製品、無償ツールが存在します。目的や条件に応じて適切に選択しましょう。

※1 TLS:terrestrial laser scanner

III BIM活用レシピ

実施時期



活用ケース

操作画面(トップ)



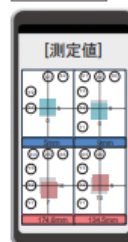
建方時

- 建方時にBIMモデルに埋め込まれた階高等の計画情報から、建方精度と柱の倒れの管理許容誤差、限界許容誤差を自動で算出
- 実測値と比較しアプリ上で合否判定を表示

建て入れ直し

- アプリ画面を確認しながら作業員とリアルタイムに位置調整

操作画面(建方時)



建方後

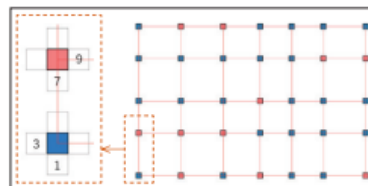
- 結果の帳票作成 (PDF)
- マイクロソフトExcelやPowerBIを活用してのデータの解析

活用ポイントと課題

難易度：☆☆☆ 中級者向き

- 測量座標算出や計算ミスの減少
- 作業員の傍で一緒に倒れの確認が可能
- 遠隔地からでもアプリ上で計測結果を共有
- 同一箇所から複数の計測が可能となり、盛替え数減少による時間短縮
- 使用者が高所へ上がる必要がなく安全性が向上
- 事務所へ戻らずアプリの操作で帳票出力
- 専用機器使用による事前学習
- 矩形でない建物での利用

全体状況画面



今後

写真との重ね合わせ



- 360度カメラ映像や点群データ利用による専用測量機器使用前の事前精度把握
- 平面表記ではなく現況写真や点群データとの重ね合わせをおこない、3D表記とすることで、より分かりやすい直感的な認識の実現
- BIMモデルの材種と建方時の気温を取得し、夏季冬季での温度変化による伸び縮みの事前把握
- BIMモデルと連携することで上階の重量、バランスを把握し、建て入れ直しの方針支援
- 事例データ蓄積と解析から建方時の精度向上
- 位置情報アプリとの連携

2026年4月に日建連HPにて公開（予定）

おわりに | 2026年度の展開（主な活動計画）

建築BIM合同会議・BIM部会などにおいては、設計と施工の部門を横断した議論を続けていきます。今後も提言や事例紹介などを通じて、BIMを活用した業務の定着が進むような情報の発信や情報共有の場を設けます。

ワークフローの公開・周知

- ・ 設計段階における設計部門と施工部門の共創（ワークフロー）への共感に向けた周知活動を継続します
 - ▷ 設計段階における設計部門と施工部門の共創（例） | 設備工事（例） | 鉄骨工事（例）
 - ▷ 総合建設会社だけでなく専門工事会社などにも効果を感じていただけるワークフローが必要

2035年・2050年に向けてBIMのあり方を討議

- ・ 日建連の「長期ビジョン2.0」や「生産性向上推進要綱2.0」の方針に合わせた課題解決に向けた取り組みを進めます



▲ 長期ビジョン2.0(2025.7)



▲ 生産性向上推進要綱2.0(2025.12)

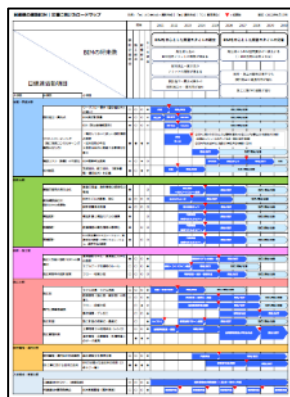
教育・啓発活動

- ・ 「2026年度日建連BIMセミナー」において、ワークフローの周知・解説をおこないます
 - ▷ 開催日（予定）：2026年6月19日（金）13:00-17:00（予定）、オンライン開催
- ・ 『建築BIMのスタイル 事例集2026』の編集・公開（2027年3月末公開予定）
 - ▷ 「施工BIM」だけでなく「設計BIM」や「設備BIM」の事例を新たに加えて刊行します

各種資料の入手先 | 日建連 - BIM部会HP



▲ BIM部会 (日建連HP)



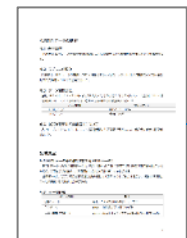
▲ ロードマップ



▲ BIMモデル承認 (鉄骨FAB)



▲ BIM実態調査2023



▲ EIR/BEP



▲ 施工BIMの活用ガイド



▲ 設計施工一貫方式における BIMワークフロー



▲ 設計BIMモデルガイド



一般社団法人 **日本建設業連合会**

JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS